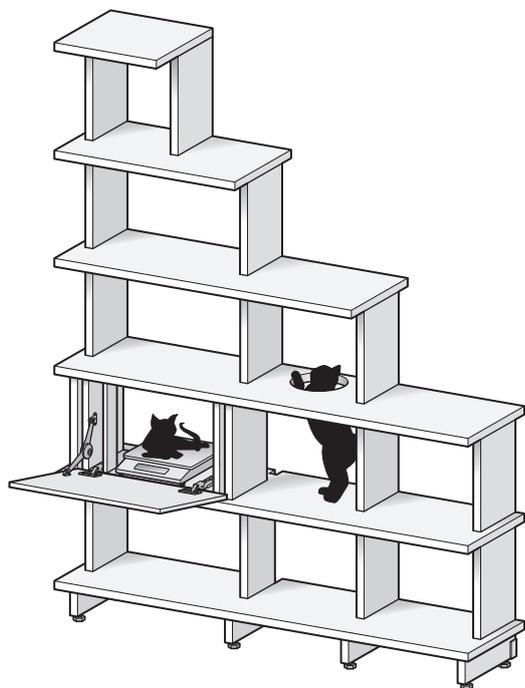


ねこシェルフ



※体重計は別売です。

もくじ

1. 安全上のご注意 …… 2 ~ 3
2. 各部の名称 …… 3
3. 全体図・製品寸法図 …… 4
4. 構成部品 …… 5 ~ 6
5. 施工方法 …… 7 ~ 21
6. お手入れ方法 …… 22

- ・本製品は、爪とぎなどによる傷がつきにくい製品ではありません。
- ・本製品からの落下や、扉にはさまれるなどによる、ねこのケガなどについては責任を負いかねます。
- ・ねこにより、本製品に積載・収納した物品に生じた、破損、汚損、滅失などの損害や、当該物品の落下、破損などに起因して発生した一切の損害についてはその責任を負いかねます。

「施工業者様へのお願い」

弊社では、お施主様が製品を安全に正しくご使用いただくためのお願い事項やお手入れ方法などの重要な内容を記載した「取扱説明書」を添付しております。必ず、お施主様に手渡していただきませうお願いします。

(取扱説明書は弊社 HP <https://www.daiken.jp/qr/manual/> よりダウンロード可能です。)



- 本製品の性能と安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき、手順どおりに正しく施工してください。
- この施工説明書に出てくる△注意や◼施工上のご注意・△警告は、施工上重要な内容が記載されていますので、注意深く読み、よく理解してから作業を行ってください。
- 梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
- 本書は、必ずお客様にお渡しください。
(設置終了後、使用方法を説明してください。)

■ 施工の際は、以下の工具をご用意ください。

- ・ 電動ドリル
※インパクトドライバーは金具の破損やユニットの破損につながるおそれがあるため、使用しないでください。
※方立高さが低い場合にはL型ドライバーを使用してください。
- ・ 手まわしドライバー
- ・ ゴムハンマー
- ・ コンバックス等測定定規
- ・ 水準器
- ・ 下地探し器



L型ドライバー

⊘
してはいけない

安全上のご注意 (必ずお守りいただきたいこと)

この製品をお施主様が永く安全に使えるように、またトラブルなく確実な施工をするために、以下のことを必ず守ってください。

警告表示の種類と内容

| | | | | | |
|--|-----------|-------------------------------|---|-----------|---------------------------------|
|  | 警告 | 誤った取扱いにより死亡や重傷などに結びつく可能性のある内容 |  | 注意 | 誤った取扱いにより傷害または家屋・家財などの損害に結びつく内容 |
|--|-----------|-------------------------------|---|-----------|---------------------------------|

本文中に使われている図・記号の意味は次のとおりです。

| | | | |
|--|-------------|---|----------------|
|  | してはいけない内容です |  | 必ず実行していただく内容です |
|--|-------------|---|----------------|

施工上のご注意

警告

-  本製品は壁面固定専用です。背面が壁に接する位置以外には本製品を設置しないでください。
-  ねこシェルフの壁への固定は、600 mmピッチ以下で指定の固定金具を取り付けてください。
指定のピッチを守らない場合製品の転倒などにより重傷を負う可能性があります。
-  施工は、必ず2人以上で行ってください。
1人での施工は事故の原因になります。
-  ボックスの取り付けは、正しい位置に指定本数の固定ねじで確実に行ってください。
固定が不完全な場合、転倒や脱落等によりケガをするおそれがあります。
-  固定の際、必ず十分な下地に固定できるように下地の配慮をお願いします。
下地材の条件については、P.7「設置場所の下地の確認・対応する施工方法」をご覧ください。
-  施工までの間、製品を立てかけたり、不安定な場所に置いたりしないでください。
棚板や方立の反り、キズの原因になります。
-  施工時に棚板や方立に足をかけたり、乗ったりしないでください。
-  ビスの締め付け不足、またはビスの締め過ぎによる空回りの状態に注意してください。
製品が外れて、けがや破損のおそれがあります。

注意

-  本製品はキャットウォーク、および収納棚として設計されています。他の用途に使用しないでください。

使用上のご注意

警告

-  TVなどの家電製品を設置する際は、壁・側板との間に隙間を設けてください。
 - 隙間は家電製品の取り扱い説明書の寸法をお守りください。
 - 十分な隙間がないと火災、製品の変形、変色などが起こる恐れがあります。
-  製品の改造はしないでください。製品の強度が失われる可能性があります。
施工時に製品の形状を変えるような加工をされた場合は、品質保証責任を負いかねます。
-  絶対に分解、修理、改造しないでください。
製品強度が失われ、破損やけがの原因となる場合があります。
-  棚板に腰かけたり、登ったり体重をかけないでください。
落下、破損などを引き起こし重症を負う可能性があり大変危険です。
-  表記の耐荷重を超えるものをのせないでください。
脱落・破損し、ケガをするおそれがあります。
(耐荷重はカタログおよび本書に表記しています。)
-  本製品の近くでストーブなどの熱源を使用しないでください。
変形や破損の原因となります。
-  丁番など可動部には手を入れないでください。
-  扉と箱や扉と扉の隙間に手を入れないでください。
手をはさんでケガをするおそれがあります。特に小さなお子様には十分ご注意ください。

安全上のご注意 (必ずお守りいただきたいこと)

使用上のご注意

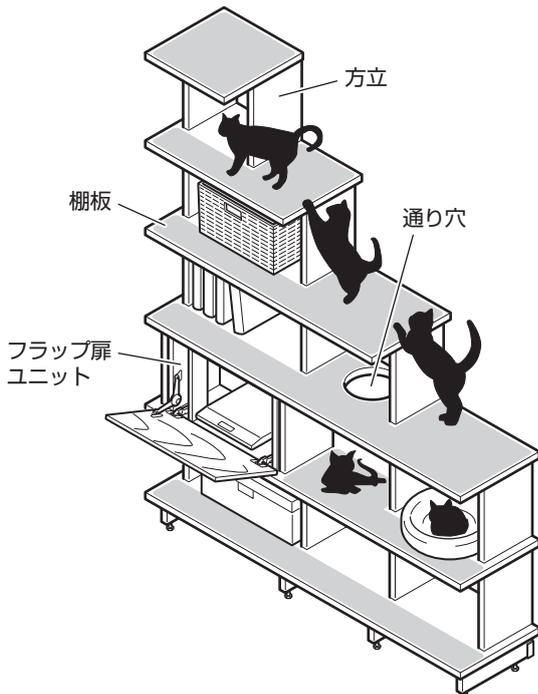
⚠ 注意

- ❗ 扉の開閉は静かに行ってください。
扉が破損、転倒、落下しケガをするおそれがあります。
- ❗ 扉が傾いたり、がたついている場合は、調整ねじがしっかり締め付けてあるか確認してください。
扉が脱落してケガをする恐れがあります。
- ⊘ 扉などに乗ったりぶら下がったりしないでください。
破損、転倒、落下してケガをするおそれがあります。
- ⊘ 耐荷重表記を超える重量物を収納しないでください。
破損、転倒、落下してケガをするおそれがあります。
(耐荷重はカタログおよび本書に表記しています。)

ご使用上のご注意

- ⊘ 固いもので表面をこすらないでください。
キズがつくおそれがあります。
- ⊘ 入浴剤や毛染め液などの染料の強い薬剤を収納しないでください。
色移りが発生する可能性があります。
- ⊘ 本体に粘着テープやシールを貼らないでください。
表面が傷むおそれがあります。
- ⊘ 暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接あたらないようにしてください。
反り、変形、腐食、シミの原因になります。
- ⊘ 扉のステーなどの金具類に油を差さないでください。
金具動作不良の原因となります。
- ⊘ 通り穴にお子様の頭などが挟まらないように保護者の方は特にご注意ください。
- ⊘ ねこの尿や水濡れ・汚れを放置しないでください。
変色やひび割れ、シミやサビ、変形(反り)や腐食の原因になります。必ず水分が残らないように拭き取ってください。
- ⊘ フラップ扉は使用しないときは閉めておいてください。
猫が飛び乗って扉が破損するおそれがあります。

各部の名称



耐荷重

方立間 **最大各 25kg**

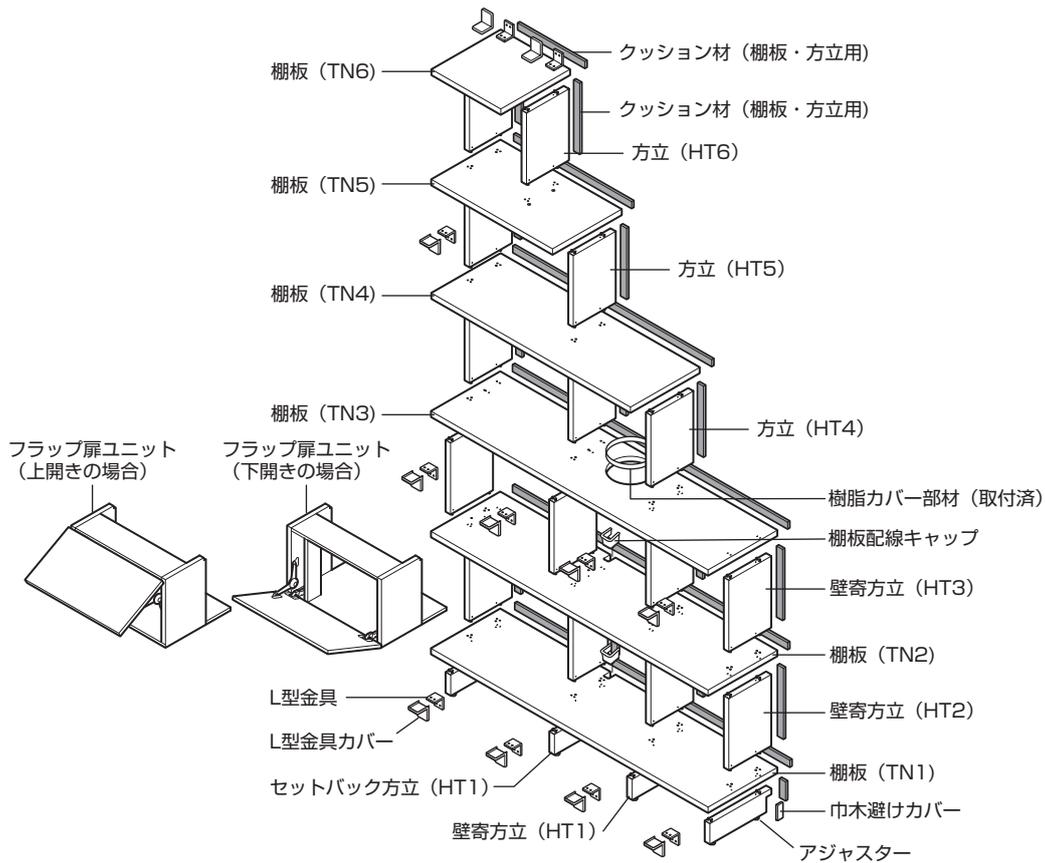
棚板 1枚あたり **最大各 50kg**

：ねこの通り道を示しています。物を置くとねこが落とし、破損する可能性があります。また、ねこの通り道でなくても、ねこが物を落とし、破損する可能性がありますので、収納物には十分ご注意ください。

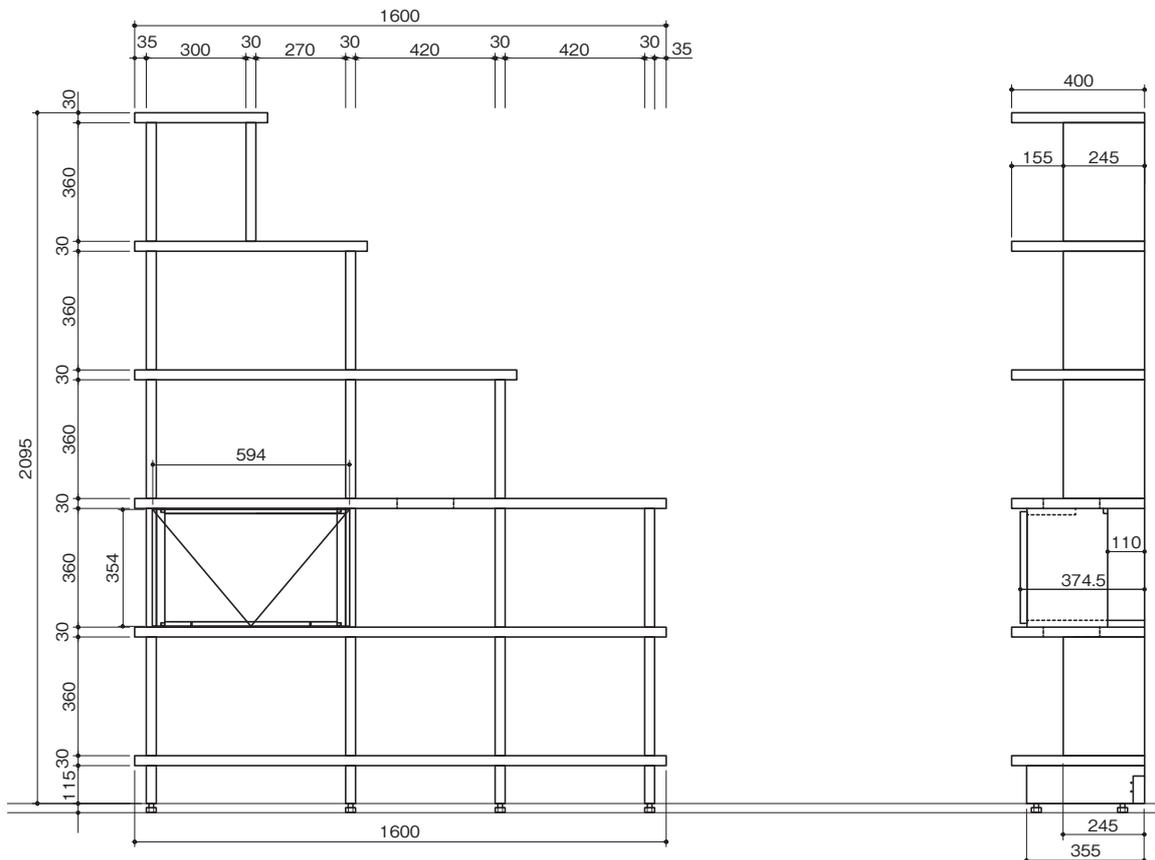
⚠ 注意

- ⊘ ねこの通り道に物を置かないでください。
- ⊘ 通り道以外に物を置く場合も十分注意してください。
ねこが触れたり、着地の衝撃で物が落下し破損するなどにより、ねこがケガをするおそれがあります。

全体図



製品寸法図 ※プランは例です。



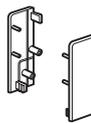
構成部品

部材の種類と数量、状態を確認してください。

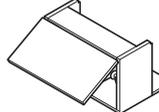
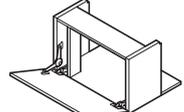
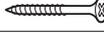
■棚板

| | | 棚板長さ | 数量 | | 仕様 | |
|----------|----------|------------------------------------|---|---------------|-----|-------------------|
| | | | ～2400 | | | |
| 棚板 | | | 1 | | | |
| 同梱 部品 | 部品 箱 | 方立(棚板下面)連結ビス |  | プランによって異なります。 | | コーススレッドφ3.8×51 |
| | | 方立(棚板上面)連結ビス |  | プランによって異なります。 | | コーススレッドφ3.8×51 |
| | | 方立連結キャップ |  | プランによって異なります。 | | ビス穴隠しキャップ 棚板同色 |
| | 最下段 棚板 | 施工説明書 | 1/1プラン | | | |
| | 棚板長尺接続納め | 目地キャップ | 2/1継ぎ部 | | ABS | |
| | 棚板配線キャップ | ※配線用の欠き込みが棚板端部に ない箇所は、取り付け済みです。 |  | プランによって異なります。 | | ABS |

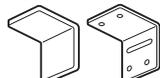
■方立 下部用／上部用

| | | 下部／上部 | 数量 | | | | 仕様 |
|----------|-------------|--|-----------|----|--------|----|------------------------------------|
| | | | 下部 | | 上部 | | |
| | | | 種類 | 壁寄 | セットバック | 壁寄 | |
| 方立 | | | 1/2/3/4 入 | | | | |
| 同梱 部品 | 巾木避け カバー |  | 1/2/3/4 入 | — | — | — | ABS欠き取り用カバーフラップ/枠1set(L用:1枚,R用:1枚) |

■フラップ扉ユニット W450 / W600 (組立完成品)

| | | 幅 | 数量 | | 仕様 | |
|----------|-----------------|---|---|------|---|----------------|
| | | | W450 | W600 | | |
| ユニット本体 | | | 1 | |   ※「上開き用」と「下開き用」の2種類があります。 | |
| 同梱 部品 | ステー速度調整用レンチ |  | 1 | | 六角レンチ 4mm用 | |
| | クリアバンポン |  | 2 | | | |
| | 棚板 方立 固定用 | 連結ビス |  | 12 | | コーススレッドφ3.8×32 |
| | 連結ワッシャー |  | 12 | | J Bワッシャー φ4用 | |
| | 連結キャップ |  | 12 | | J Bキャップ | |

■施工部材セット

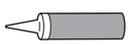
| | | 数量 | | | 仕様 | |
|----------|--------------|---|--------|--------|----|--|
| | | 幅900用 | 幅1600用 | 幅2400用 | | |
| 同梱 部品 | 棚板金具 |  | 6 | 9 | 15 | L型補強金具(ユニクロ) カバー(ホワイト/ブラック) |
| | 棚板金具固定用ビス |  | 12 | 18 | 30 | なべスレッドφ4×50 ※オンボード工法用の場合 なべタッピンφ4×16 |
| | | | 12 | 18 | 30 | なべタッピンφ4×16 |
| | 接着剤 | | 2 | 3 | 3 | 酢ビ系 20g |
| | アジャスター調整用スパナ |  | 1 | 1 | 1 | M8用 |

構成部品

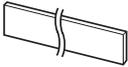
■不陸調整クッション材

| | タイプ 種類 | 数量 | 仕様 |
|----------|--|------------------|--------------------------|
| | | 棚板・方立用 クッション材 | |
| 同梱 部品 | 棚板・方立用 W30  | 2 | 発泡PE(両面テープ付) t10×30×2000 |

■ DS 接着剤 (専用接着剤)

| | | | |
|--|--|---|----------------|
| | DS接着剤(専用接着剤)  | 1 | オンボード工法用 333mL |
|--|--|---|----------------|

■オンボード工法用棧 (18 × 50 × ~ 2400mm)

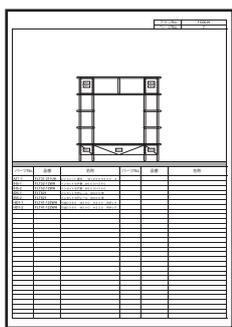
| | | | |
|--|---|---|--|
| | オンボード工法用棧  | 1 | |
|--|---|---|--|

部材の確認

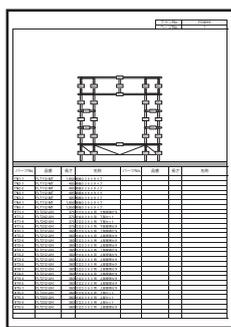
□施工の条件

-  部材についているパーツ No. シールとプランパーツ図を照らしあわせて、過不足がないか確認してください。
-  製品の組み立ては、プランパーツ図に従って部材を配置してください。

■プランパーツ図



棚板・方立



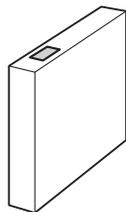
オプションパーツ

■パーツ No. シール貼付箇所

・各部材には、パーツ No. シールがはりつけてあります。

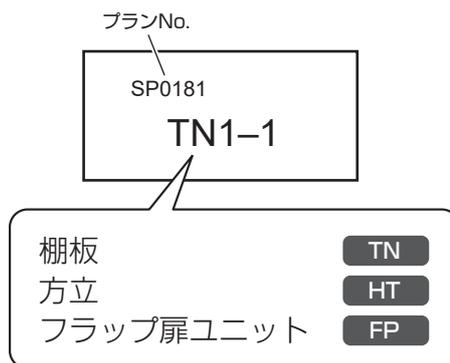


棚板…手前右側木口面



方立…上木口面

■パーツ No. シール



設置場所の下地の確認・対応する施工方法

1 下地別の施工方法

□施工の条件

- ねこシェルフは壁固定が必要です。

① 壁固定（木下地、軽鉄下地）の場合

→下地に、同梱ビスで固定……………⇒P.8へ

② 壁固定（RCクロス直張壁）の場合

→下地に、現場手配コンクリートビスで固定……⇒P.13へ

③ オンボード工法の場合

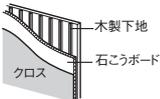
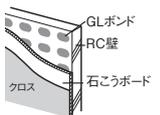
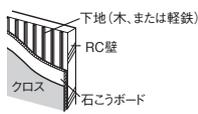
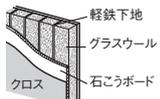
→石膏ボードまたはRC壁に、オンボード工法用棧を接着し、同梱ビスで固定 ……⇒P.15へ

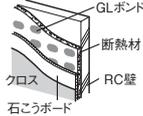
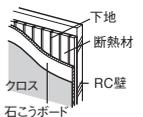
2 下地の確認

⚠注意

- ❗ 設置場所の壁、床の水平、垂直を確認してください。製品のゆがみや隙間が生じる可能性があります。設置場所の壁下地および床が下記の条件に適合しているかを確認してください。

- ・ねこシェルフは、クロスなどの壁仕上げ後に設置する製品となります。施工の際は、クロス、壁仕上材に傷を付けないようご注意ください。
- ・天井と最上段の棚板とは300mm以上の隙間が必要です。（上面からのビス固定のため）設置場所の天井高をご確認ください。

| 壁種類 | 下地種類 | 施工可否 | |
|------|---|----------------------|--------|
| | | ビス固定 | オンボード |
| 間仕切壁 |  軽鉄下地 クロス 石こうボード | ○ ^{※1} ① | ○ ③ |
| |  木製下地 クロス 石こうボード | ○ ^{※1} ① | ○ ③ |
| 戸境壁 |  RC壁 クロス | ○ ^{※2} ② | ○ ③ |
| |  GLボンド RC壁 クロス 石こうボード | × | ○ ③ |
| |  下地(木、または軽鉄) RC壁 クロス 石こうボード | ○ ^{※1} ① | ○ ③ |
| |  軽鉄下地 グラスウール クロス 石こうボード | ○ ^{※1} ① | ○ ③ |

| 壁種類 | 下地種類 | 施工可否 | |
|-----|--|--------|--------|
| | | ビス固定 | オンボード |
| 外壁 |  GLボンド 断熱材 クロス RC壁 石こうボード | × | ○ ③ |
| |  下地 断熱材 クロス RC壁 石こうボード | ○ ① | ○ ③ |

| 床下地材の条件 | | 施工可否 |
|---------|----------|------|
| 在来 | 木質フロア | ○ |
| | タイル | ○ |
| | クッションフロア | × |
| | カーペット | × |
| | 畳 | × |
| 二重床 | | ○ |
| 直張床 | | ○ |

- ※1 15mm以上の石こうボードを壁材に使用している場合は、石こうボード厚+35mm以上のビスを現場手配してください。
- ※2 P.13の「② 壁固定（RCクロス直張壁）」での施工を参照してください。

① 壁固定(木下地、軽鉄下地)での施工

施工の流れ

1 施工前の準備

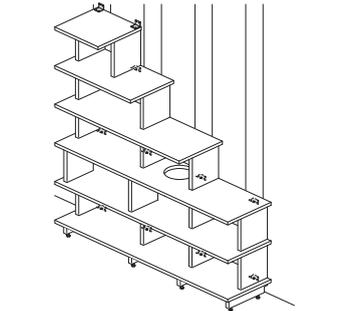
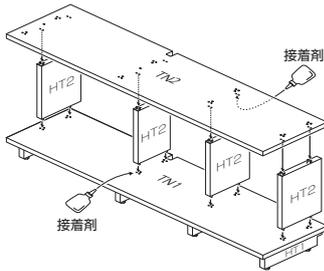
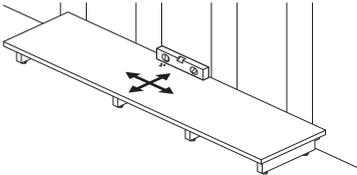
2 1段目の棚の組み立て

3 棚板のビス固定

4 棚板水平確認

5 2段目以降の組み立て

6 壁面への固定



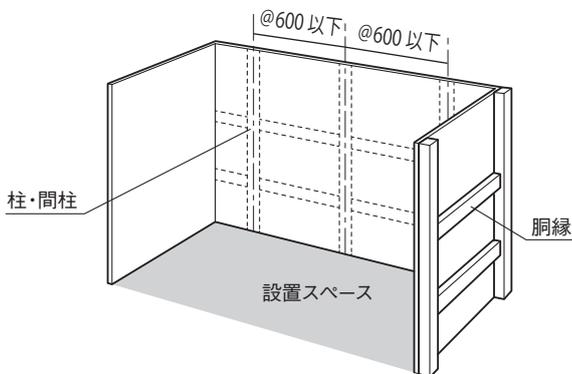
1 施工前の準備

固定用下地の準備・棚板金具の取り付け位置の確認

- 柱・間柱・合板下地など、固定用下地を準備してください。
- 製品を取り付ける場所の下地の位置を下地探し器などで確認し、あらかじめ目印をつけてください。

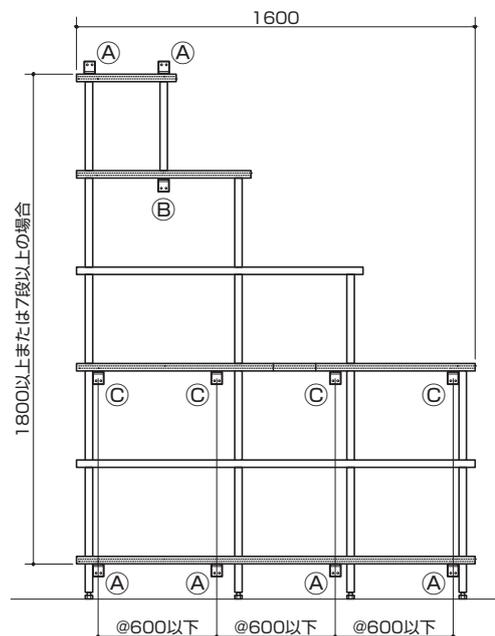
警告

- ❗ 下地は 600mm ピッチ以内で壁面に固定できる位置にあることを確認してください。
- 合板下地の場合は、12mm 厚以上の下地をユニット施工部全面に配置してください。
- 固定ピッチを守らない場合製品が転倒し重傷を負う可能性があります。

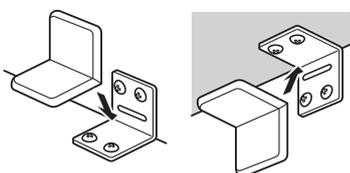


棚板金具の取り付け位置について

- Ⓐ 最上段と最下段の棚板に、600mm ピッチ以内で固定する。
- Ⓑ 棚板の上の方立がありその下には方立が無い箇所には、その棚板の下に固定する。
- Ⓒ 棚板段数が7段以上または、最上段～最下段の高さ寸法差が 1800mm 以上の場合は、中段のいずれかの棚板に 600mm ピッチ以内で固定する。



棚板金具は棚板の上面・下面どちらにも取り付けられます。



※プランは1例です。

※  は金具固定が必要な棚板を示します。

① 壁固定(木下地、軽鉄下地)での施工

2 1段目の棚の組み立て

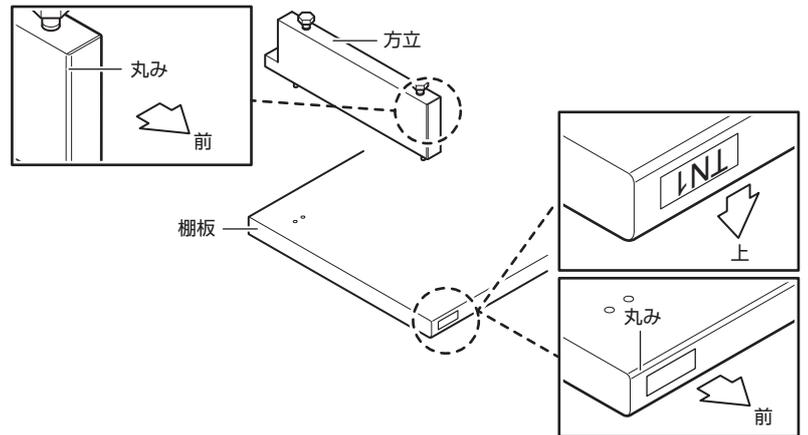
用意する部材

TN1 HT1

1. 部材の確認

方立の場合

- 丸みがある側が前側であることを確認する。
- 切り込みがある側が壁側であることを確認する。

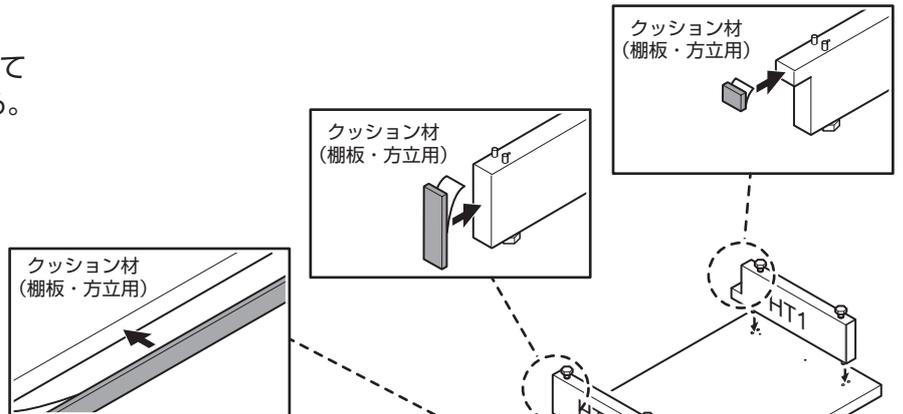


棚板の場合

- 丸みがある側が前側、パーツ No. シールの文字が読める側が上側であることを確認する。

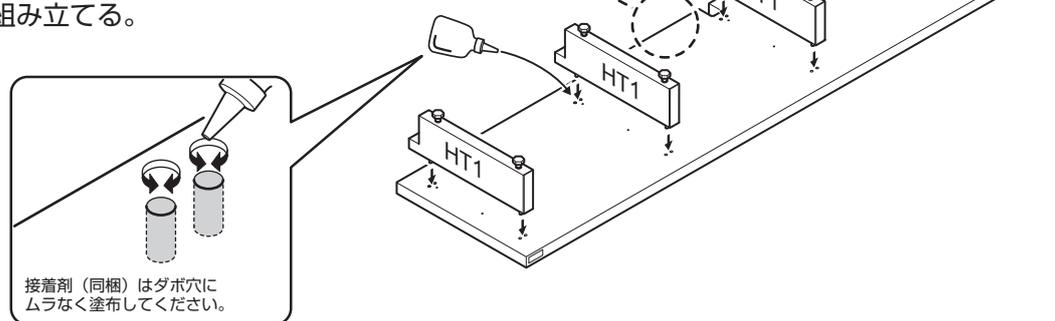
2. クッション材を貼り付け

- 方立と棚板の壁側に長さに合わせてカットしたクッション材を貼り付ける。



3. 棚の組立て

- 方立と棚板 (TN1) を組み立てる。



① 壁固定(木下地、軽鉄下地)での施工

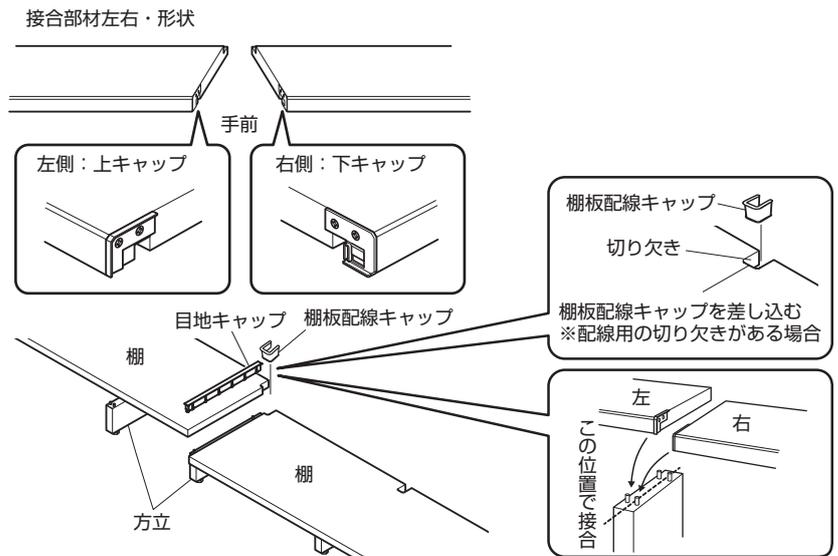
W2400以上のプランの場合

4. 棚の連結

- ① 2枚以上の棚板を方立の上で接合する。
棚板端部に配線用の切り欠きがある場合、棚板配線キャップを差し込む。

□施工の条件

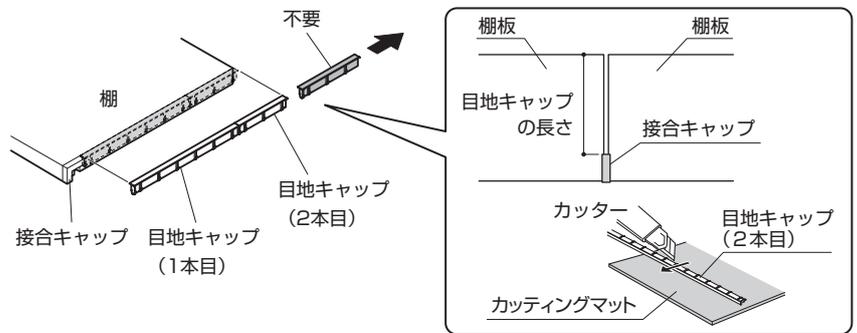
- 接合部材には、左右がありますので棚板の正面・パーツNo.を確認してから作業を行ってください。
- 勘合がゆるい場合は変性酢ビ系の接着剤(現場手配)で接着してください。



- ② 目地キャップを必要長さにカットする。

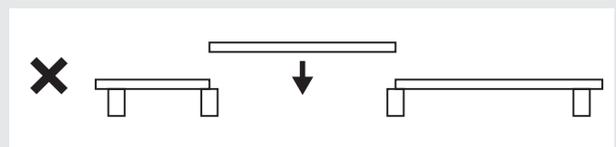
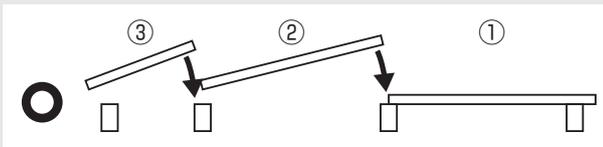
□施工の条件

- 目地キャップは1箇所の接合に2本連結させて使用します。



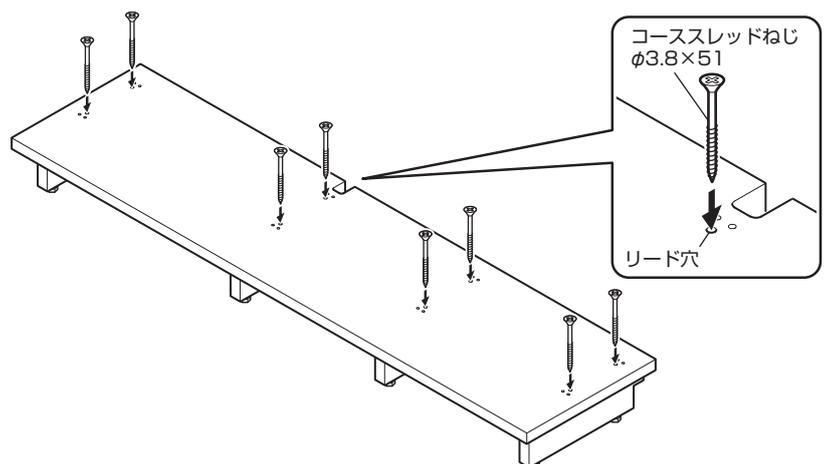
□施工の条件

- ⚠️ 必ず向かって右側の棚板から順に取り付けを行ってください。 ⚡️ 下記の順番での取り付けはできません。



3 棚板のビス固定

- 方立と棚板をリード穴に沿ってねじ固定する。



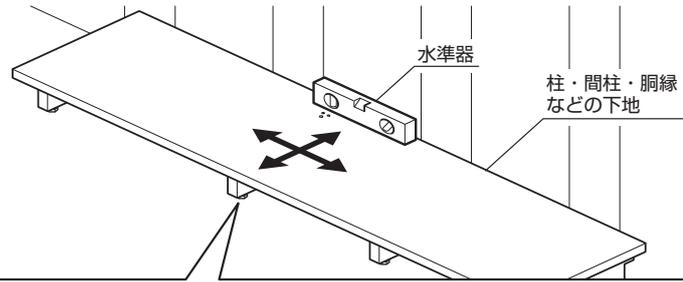
① 壁固定(木下地、軽鉄下地)での施工

4 棚板水平確認

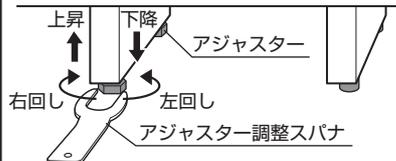
- 棚板を設置し、水準器で棚の左右・手前奥の水平を確認する。

◻施工上のご注意

- ❗必ず水平を確認してから2段目以降の組み立てを行ってください。
水平が確保されていないと、がたつきなどの不具合が生じます。



水平の調整方法



付属のアジャスター調整スパナを使用し、方立下部のアジャスターで調整します。(調整範囲+20mm)

5 以降の棚の組み立て

用意する部材

TN2 ~ HT2 ~

1. 棚の組立て

- 方立と棚板を組み立てる。

2. クッション材を貼り付け

- 方立と棚板の壁側にクッション材を貼り付ける。

3. 棚板のねじ固定

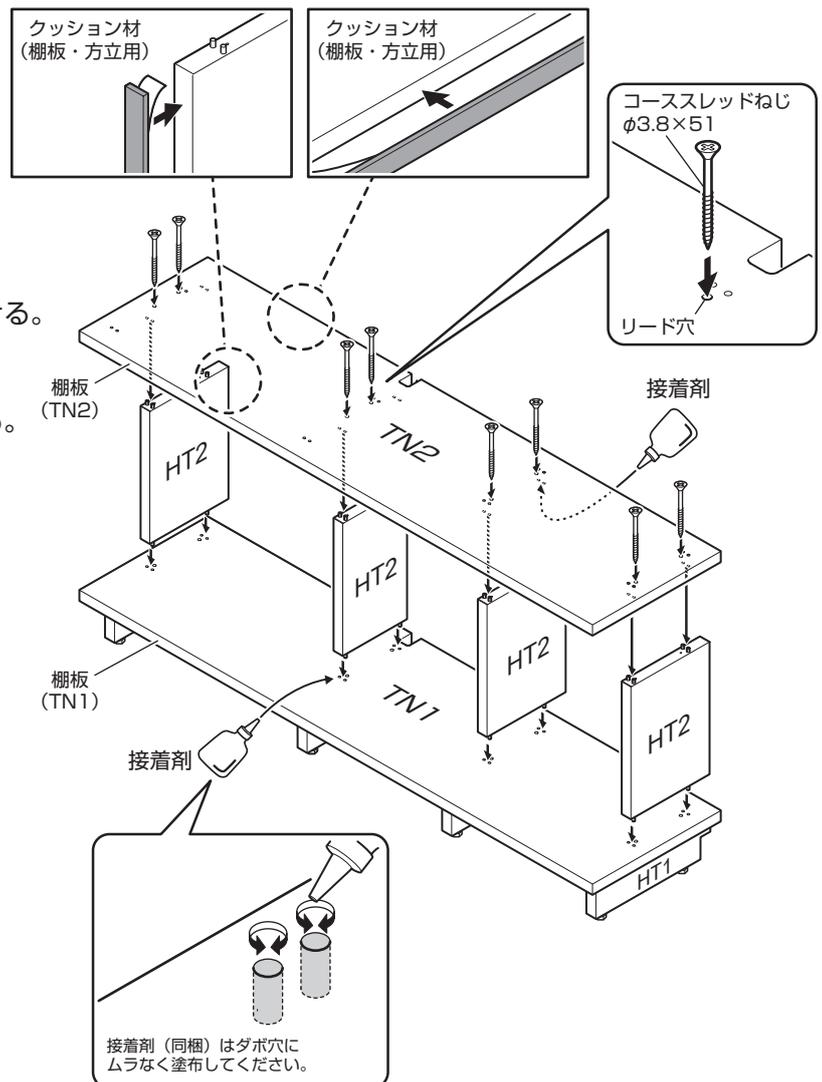
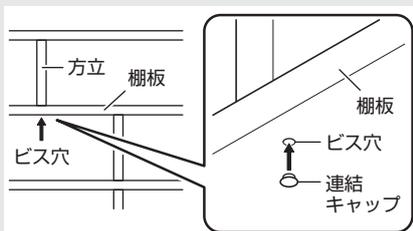
- 方立と棚板をリード穴に沿ってねじ固定する。

◻施工上のご注意

- ❗方立、棚板の種類を間違えないようにしてください。

◻施工の条件

- 方立を取り付ける際、下の段の方立と同じ縦位置にしない場合は、連結キャップを棚板下面のビス穴にはめ込んでください。



① 壁固定(木下地、軽鉄下地)での施工

6 壁面への固定



警告



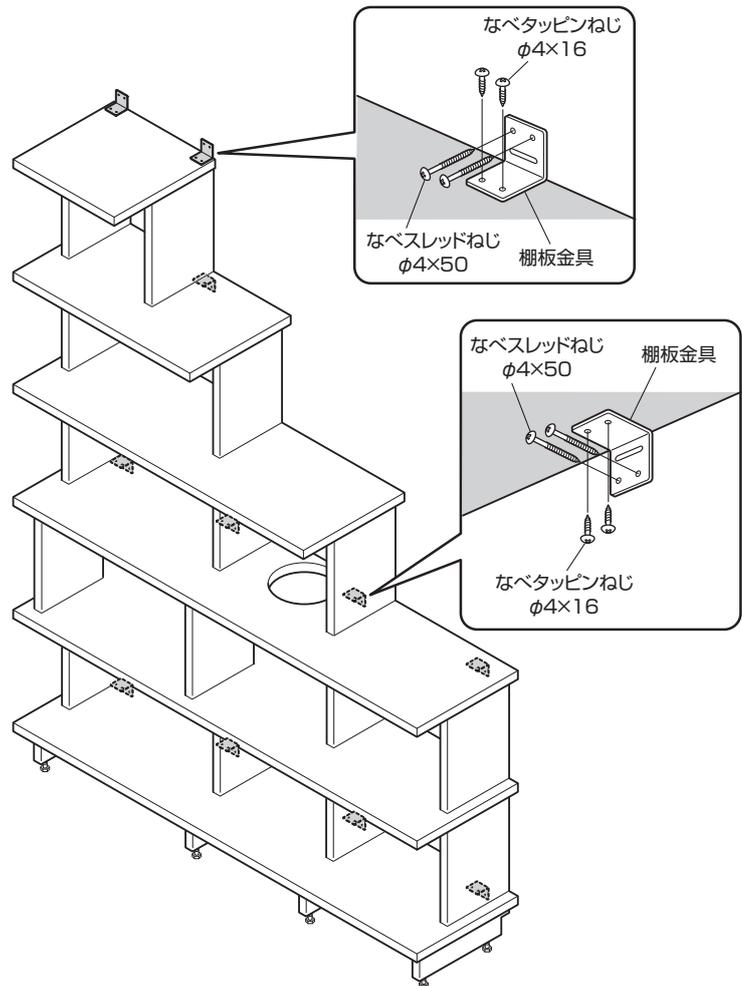
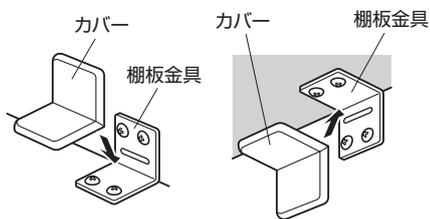
ねこシェルフの壁への固定は、正しい位置に指定本数の壁固定ねじで確実に行ってください。棚板金具の取り付け位置はP.8「棚板金具の取り付け位置について」をご覧ください。



固定の際、必ず十分な下地に固定できるように下地の配慮をお願いします。
下地材の条件については、P.7「設置場所の下地の確認・対応する施工方法」をご覧ください。
固定、設置方法が確実でないと、ねこシェルフの転倒や落下の原因になります。

①棚板金具で本体を壁面に固定する。

②カバーを棚板金具にはめ込む。



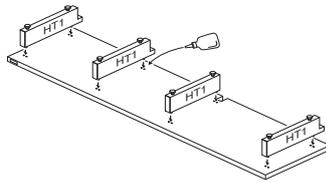
② 壁固定(RCクロス直張壁)での施工

施工の流れ

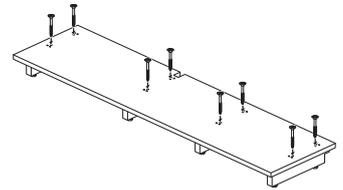
1 施工前の準備

壁面にコンクリートビスを打つ許可を得る

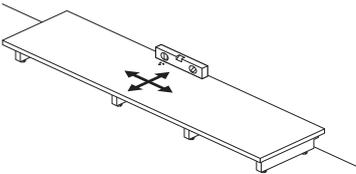
2 1段目の棚の組み立て



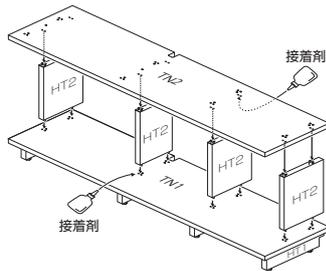
3 棚板のビス固定



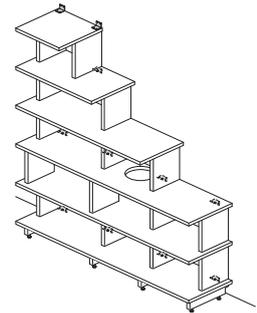
4 棚板水平確認



5 2段目以降の組み立て



6 壁面への固定



●以下の項目に関しては該当ページを参照してください。

2 1段目の棚の組み立て…………… P.9 参照

4 棚板水平確認…………… P.11 参照

3 棚板のビス固定…………… P.10 参照

5 2段目以降の組み立て…………… P.11 参照

1 施工前の準備

建物(マンション)への固定

コンクリートビス固定のしかた

□施工の条件

● 壁面にコンクリートビスを打つことの許可を得る。

許可が取れない場合は、固定できません。

- ・分譲マンションの場合…管理組合から許可を得る。
- ・賃貸マンションの場合…家主様から許可を得る。

● 固定する壁が、RCクロス直張壁であること。

② 壁固定(RCクロス直張壁)での施工

1 施工前の準備

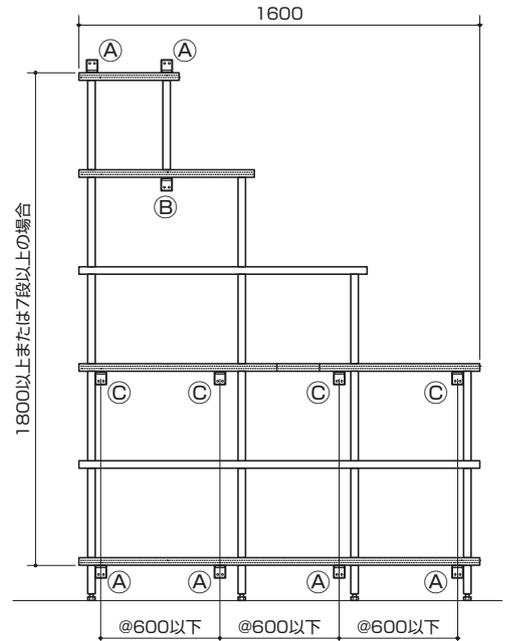
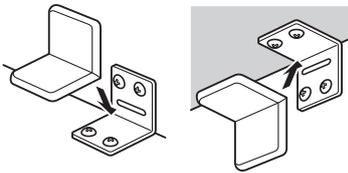
棚板金具の取り付け位置の確認

- 製品を取り付ける場所の下地の位置を確認し、あらかじめ目印をつけてください。

棚板金具の取り付け位置について

- Ⓐ 最上段と最下段の棚板に、600mm ピッチ以内で固定する。
- Ⓑ 棚板の上に方立がありその下には方立が無い箇所には、その棚板の下に固定する。
- Ⓒ 棚板段数が7段以上または、最上段～最下段の高さ寸法差が1800mm 以上の場合は、中段のいずれかの棚板に600mm ピッチ以内で固定する。

棚板金具は棚板の上面・下面どちらにも取り付けられます。



※プランは1例です。
※■は金具固定が必要な棚板を示します。

- 2 1段目の棚の組み立て** P.9 を参照して棚を組み立てる。
- 3 棚板のビス固定** P.10 を参照して棚板を固定する。
- 4 棚板水平確認** P.11 を参照して棚板の水平を確認する。
- 5 2段目以降の組み立て** P.11 を参照して棚を組み立てる。

6 壁面への固定



警告



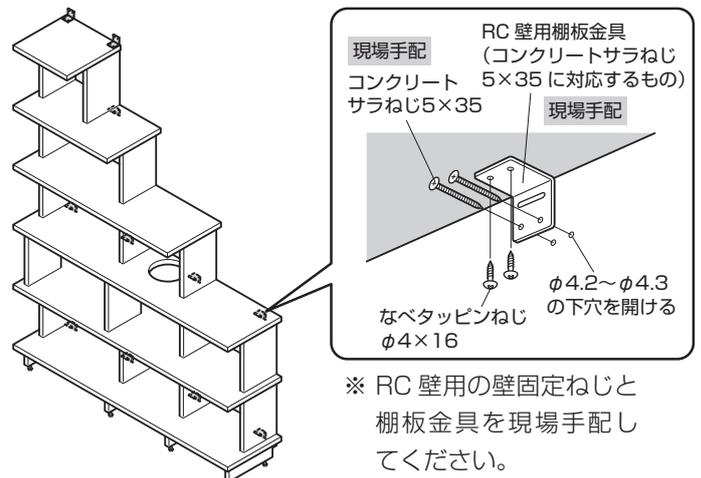
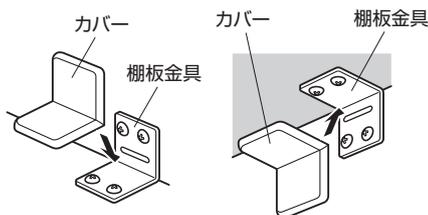
ねこシェルフの壁への固定は、正しい位置に指定本数の壁固定ねじで確実に行ってください。棚板金具の取り付け位置は上記「棚板金具の取り付け位置について」をご覧ください。



固定の際、必ず十分な下地に固定できるように下地の配慮をお願いします。
下地材の条件については、P.7「設置場所の下地の確認・対応する施工方法」をご覧ください。
固定、設置方法が確実でないと、ねこシェルフの転倒や落下の原因になります。

- ① RC 壁用の棚板金具で本体を壁面に固定する。

- ②カバーを棚板金具にはめ込む。



③ オンボード工法での施工

施工の流れ

1 施工前の準備

2 1段目の棚の組み立て

3 棚板のビス固定

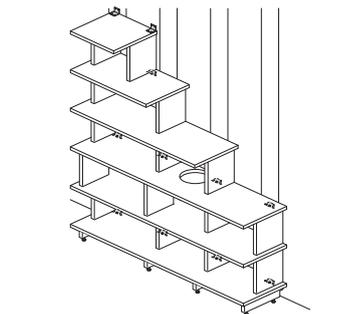
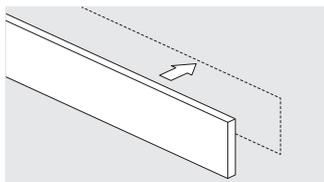
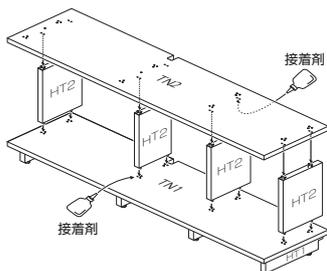
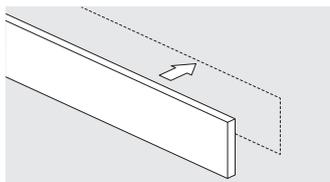
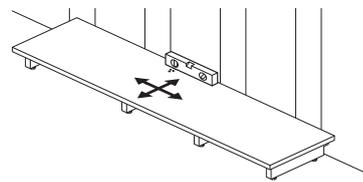
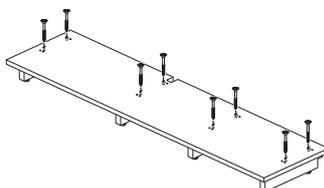
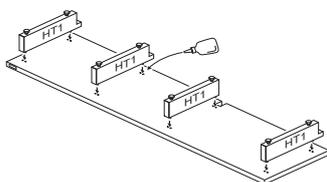
4 棚板水平確認

5 棧の接着

6 2段目以降の組み立て

7 棧の接着

8 壁面への固定



●以下の項目に関しては該当ページを参照してください。

2 1段目の棚の組み立て……………P.9 参照

4 棚板水平確認……………P.11 参照

3 棚板のビス固定……………P.10 参照

6 2段目以降の組み立て……………P.11 参照

1 施工前の準備

設置場所の確認



警告



壁面（石こうボード／コンクリート壁）の状況を確認してください。



施工する壁面の不陸が3mm以内であることを確認してください。

不陸が大きいと、棧が接着できない場合があります。



下記に従って壁面（石こうボード／コンクリート壁）に問題がないことを確認してください。

製品が転倒してしまう可能性があります。



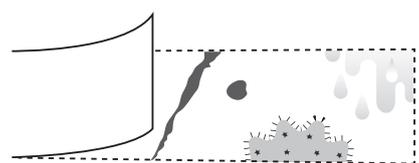
「石膏ボード施工マニュアル」「石膏ボードハンドブック」（一般社団法人石膏ボード工業会発行）に従って石膏ボードが固定されていること。
※石こうボードの固定が上記に従っていない場合、製品が転倒してしまう可能性があります。

石こうボードの場合

- ・ 棧を取り付ける場所に割れ、ひび、穴、凹凸がないこと。
- ・ クロスを剥がした場所から粉がぼろぼろ落ちてくるような状態でないこと。
- ・ 石こうボードのぬれ、カビがないこと。水廻りの近くに設置する場合は特に注意して確認を行ってください。

コンクリート壁の場合

棧を取り付ける場所に割れ、ひび、穴、凹凸がないこと。



注意



設置場所の壁、床の水平、垂直を確認してください。

製品のゆがみや隙間が生じる可能性があります。設置場所の壁下地および床がP.7の条件に適合しているかを確認してください。

- ・ ねこシェルフは、クロスなどの壁仕上げ後に設置する製品となります。施工の際は、クロス、壁仕上材に傷を付けないようにご注意ください。
- ・ 天井と最上段の棚板とは300mm以上の隙間が必要です。（上面からのねじ固定のため）設置場所の天井高をご確認ください。

③ オンボード工法での施工

1 施工前の準備

オンボード工法用棧の取り付け位置の確認

- ねこシェルフは壁固定が必要です。オンボード工法の場合右図に示す棚板金具の取り付け位置にオンボード工法用棧の取り付けが必要です。

事前に取り付け位置を確認してください。



警告

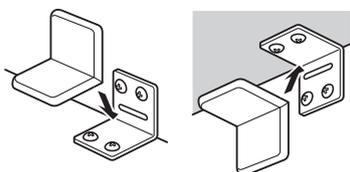


ねこシェルフのオンボード工法用棧への固定は、正しい位置に指定本数の壁固定ねじで確実に行ってください。

固定、設置方法が確実でないと、ねこシェルフの転倒や落下の原因になります。

オンボード工法用棧は棚板の上面・下面どちらにも取り付けられます。

※フラップ扉ユニットのある段には取り付けできません。



固定方法

1. 固定位置の確認

- 棚板金具の固定位置を確認する。
(固定位置については、上記「棚板金具の取り付け位置について」を参照してください。)

2. クロスを剥がす

- 棧の周囲より、3mm 程度内側のクロスを剥がす。

3. 棧の接着

- 棧に専用接着剤を塗布し、接着する。

4. 接着の確認

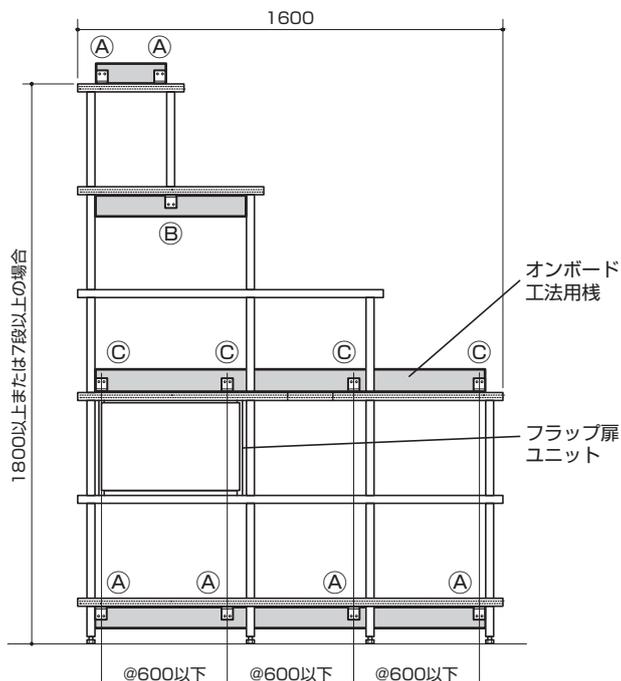
- 棧が壁にしっかり固定されているか確認する。

5. ねこシェルフの固定

- 棧に壁固定用金具で本体固定する。

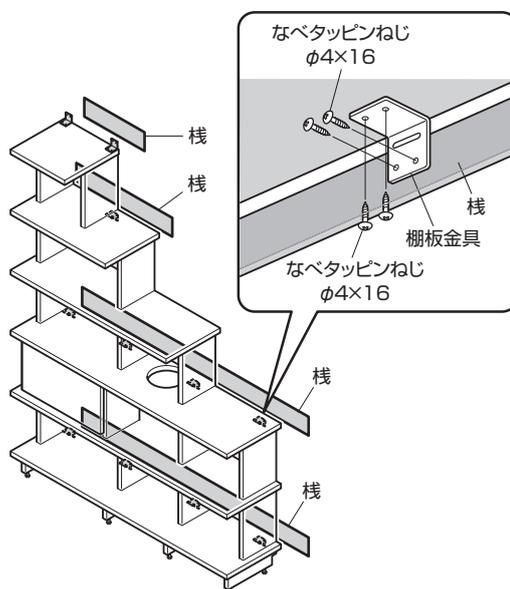
棚板金具の取り付け位置について

- ① 最上段と最下段の棚板に、600mm ピッチ以内で固定する。
- ② 棚板の上に方立がありその下には方立が無い箇所には、その棚板の下に固定する。
- ③ 棚板段数が7段以上または、最上段～最下段の高さ寸法差が1800mm 以上の場合は、中段のいずれかの棚板に600mm ピッチ以内で固定する。



※プランは1例です。

※は金具固定が必要な棚板を示します。



③ オンボード工法での施工

2 1段目の棚の組み立て

- P.9 を参照して棚を組み立てる。

3 棚板のビス固定

- P.10 を参照して棚板を固定する。

4 棚板水平確認

- P.11 を参照して棚板の水平を確認する。

5 棧の接着



警告



必ず専用接着剤をお使いください。

専用接着剤以外の接着剤を使うと、強度が低下し製品の落下、破損の可能性があります。

用意する部材



■ DS 接着剤（専用接着剤）
内容量 333mL
棧 6m あたり 1 本必要です。

■ オンボード工法用棧（18 × 50 × ~ 2400mm） 1 本 / 1 梱包



注意



クロスがしっかりはがされていることを確認してください。
クロスが残っていると強度が低下する可能性があります。



下地を傷付けないよう十分に注意して行ってください。
石こうボードの表面紙が切れたり、石こうボードに傷が付いた場合、強度が低下する可能性があります。



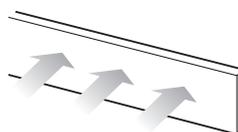
クロス
石こうボード



貼り合わせ可能時間を守ってください。
接着不良になり、製品の落下、破損の恐れがあります。



接着後、棧全体にしっかり圧力をかけてください。
必ず 1 時間以上養生させてから、収納を固定してください。
接着後スグは強度が充分ではありません。



1 時間以上
養生



棧にビス、釘、タッカーは打たないでください。
接着力不足により、転倒するおそれがあります。



棧が複数ある場合、1 本ずつ接着剤を塗布し、接着してください。
一度に接着剤を塗布すると、乾燥接着になるおそれがあります。接着剤に触れてみて、手に接着剤が付かない状態では、乾燥接着になります。その場合は新しい棧を使用し再度塗布して施工してください。



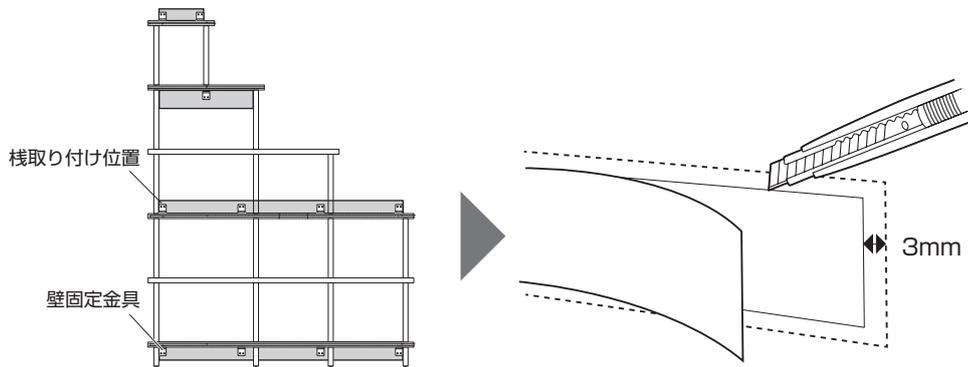
位置出しは正確に行ってください。
棧は一度接着すると簡単には取れません。

③ オンボード工法での施工

5 棧の接着

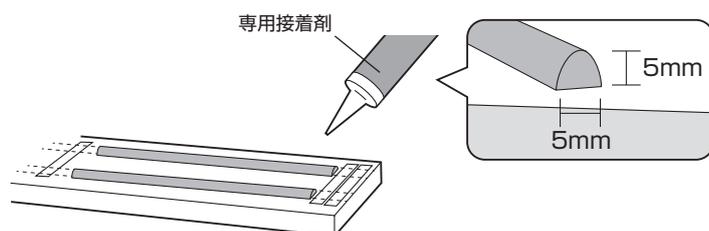
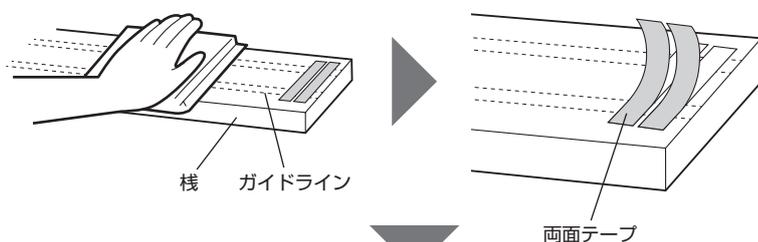
1. クロスを剥がす

- ① 棧の位置出しをする。
- ② 棧の周囲より、3mm 程度内側のクロスを剥がす。



2. 棧の接着

- ① 接着する壁面および棧のゴミやほこりを除去する。
- ② 両面テープのはくり紙をはがす。
- ③ 棧に専用接着剤を塗布する。



- ④ クロスを剥がした部分に、棧を接着する。

□施工上のご注意

❗ 下記の条件で貼り付けてください。

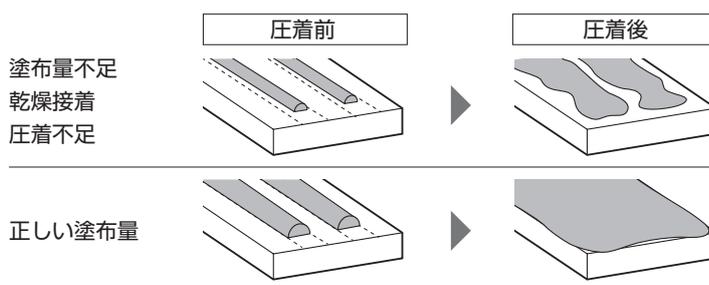
施工可能温度：

5℃～35℃

貼り合わせ可能時間：

室温 23℃の場合：約 10 分

室温 30℃の場合：約 5 分



3. 接着の確認

- 棧が壁にしっかり固定されているか確認する。

⚠ 注意

❗ 接着後スグは強度が充分ではありません。
必ず 1 時間以上養生させてください。



③ オンボード工法での施工

6 2段目以降の組み立て

- P.11 を参照して棚を組み立てる。

7 棧の接着

◻施工上のご注意

- ❗ 棚板を取り付ける前に棧の接着を行ってください。

- 棧を **5 棧の接着** と同じ手順で取り付ける。

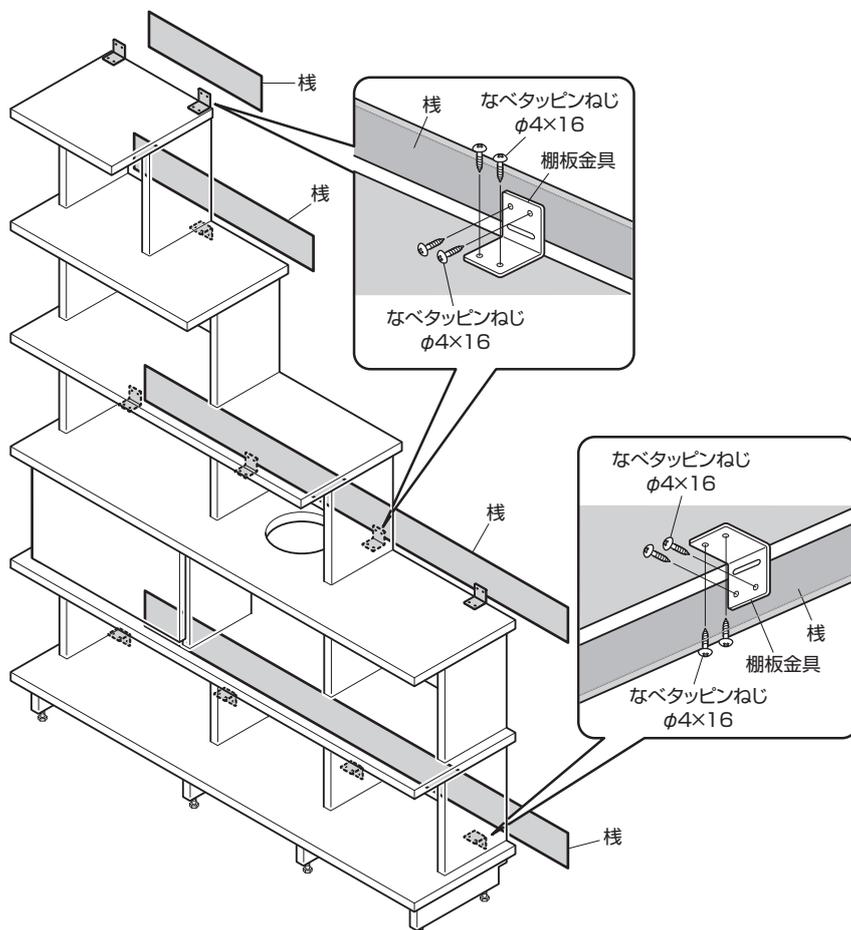
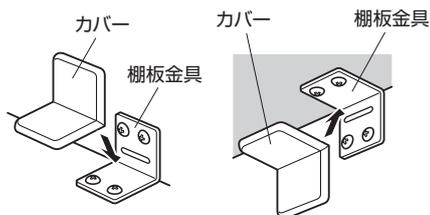
8 壁面への固定

⚠警告

- ❗ ねこシェルフの壁への固定は、正しい位置に指定本数の壁固定ねじで確実に行ってください。棚板金具の取り付け位置は P.16 「棚板金具の取り付け位置について」をご覧ください。
- ❗ 固定の際、必ず十分な下地に固定できるように下地の配慮をお願いします。下地材の条件については、P.7 「設置場所の下地の確認・対応する施工方法」をご覧ください。固定、設置方法が確実でないと、ねこシェルフの転倒や落下の原因になります。

- ① 棚板金具で本体を壁面に固定する。

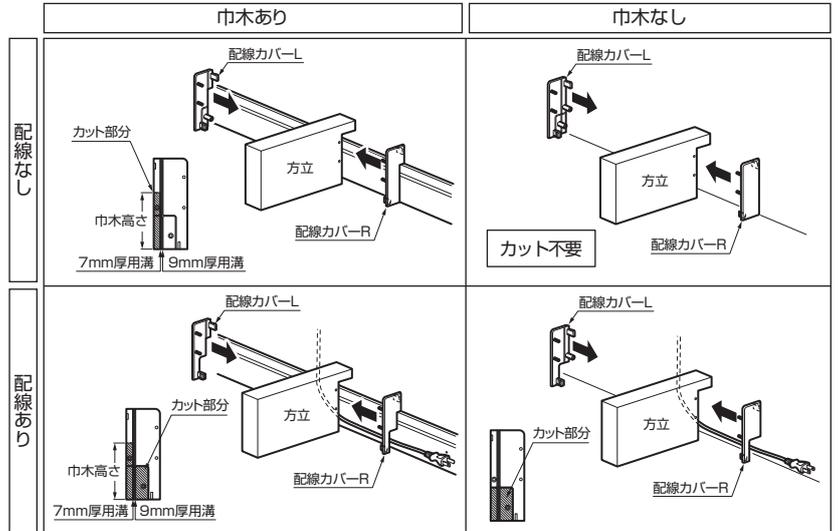
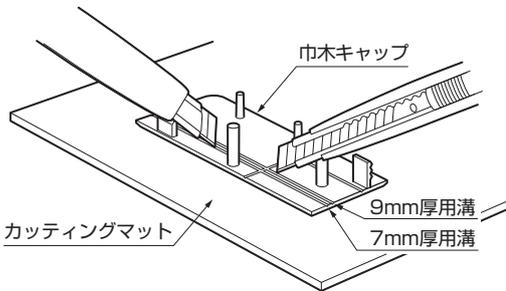
- ② カバーを棚板金具にはめ込む。



その後の施工

1 巾木避けカバーの取り付け

- ①巾木を施工の状況に合わせてカットする。
- ②巾木キャップを壁寄方立にはめ込む。



2 フラップ扉ユニットの取り付け

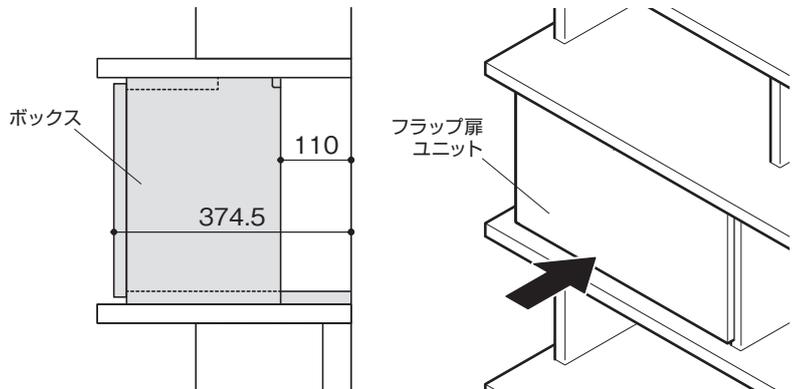
※イラストは下開き用の場合です。
上開き用も同様に付けてください。

1. フラップ扉ユニットの設置

- フラップ扉ユニットを所定の位置に設置する。

◻施工上のご注意

フラップ扉ユニットは壁側にあきがある専用方立に取り付けます。ねこが方立の後ろ側を通ることができる仕様になっています。



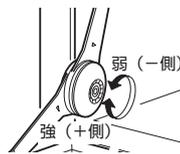
2. フラップ扉ユニットの取り付け

- フラップ扉ユニットを方立、棚板の下穴にねじで固定する。

◻施工上のご注意

フラップ扉ユニットの天板は奥行きが狭くなっています。上下を間違えないでください。

開閉のスピードの調整

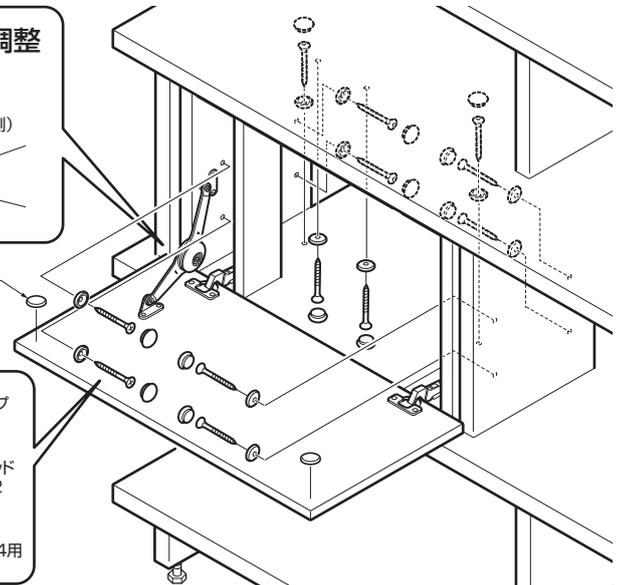


クリアバンポン



L型ドライバー

※フラップ扉ユニット高さが低い場合にはL型ドライバーなどを使用してください。



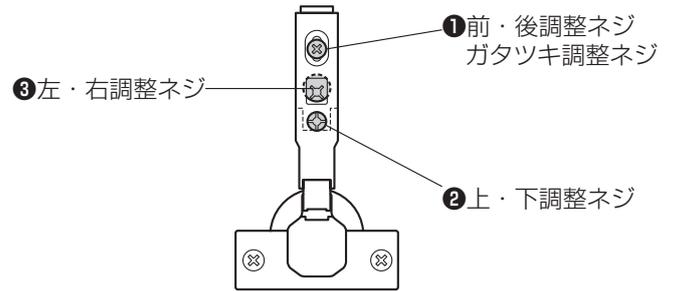
扉の調整

丁番の調節のしかた

※イラストは下開き用の場合です。上開き用も同様の調整のしかたになります。

扉が正常に開閉でき、扉のゆがみがないか確認してください。

調整は、丁番本体のネジでおこないます。



| 現象 | 調整箇所 | 処置 |
|-------------|--------------|--|
| 前後の位置ズレ | ①前・後調整ネジ | 前・後調整ネジをゆるめ、扉の前後位置を調整後、締直してください。 |
| 上下の位置ズレ | ②上・下調整ネジ | 前後調整ネジを固定したままで、上・下調整ネジを回して、扉の上下位置を調整してください。 |
| 左右の位置ズレ | ③左・右調整ネジ | 前後調整ネジを固定したままで、左・右調整ネジをゆるめて、扉の左右位置を調整した後、締直してください。 |

ステーのブレーキ具合の調整

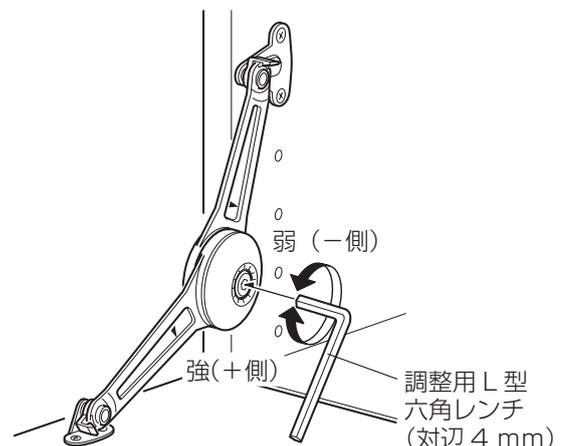
※イラストは下開き用の場合です。上開き用も同様の調整のしかたになります。

扉がスムーズに開閉するように、調整用レンチを使用し調整してください。

⚠ 注意

❗ フラップ扉は経年により開閉力が弱まってきますので、定期的に付属の六角レンチで調整してください。

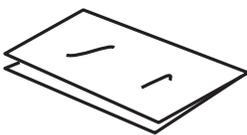
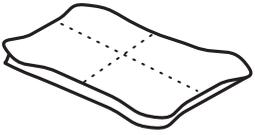
弱めすぎると、扉が急に開いたり、ステーが外れたりしてけがをするおそれがあります。



お手入れの方法 ~未永くご使用いただくための注意事項等

日常のお手入れ

乾いた柔らかい布などで拭いてください。汚れがひどい場合は、薄めた台所用中性洗剤にひたした布などをかたくしぼってから軽く拭き、乾いた柔らかい布などで水気を拭き取ってください。水気が残っているとシミやカビの原因となります。

| | | | | | | |
|----------|--|--|---------------|--|--|---|
| 使える洗剤と道具 |  中性洗剤 |  細繊維布 | 使ってはいけない洗剤と道具 |  酸性、またはアルカリ性の塩素系洗剤 |  研磨剤入り洗剤 |  たわし/ 金たわし |
| |  柔らかい布 |  シンナー/ベンジン | |  アルコール |  研磨剤入り スポンジ |  塩素系漂白剤 |



警告



本製品に付属コンセントはございませんが、コンセントを使用している場合は、コンセントにゴミやホコリが付着しないように定期的に掃除をしてください。

火災やショート・漏電・感電のおそれがあります。



注意



シンナー・ベンジン等は、使用しないでください。
表面の艶が変わったり、変色するおそれがあります。

トラブルシューティング ~故障かなと思ったら

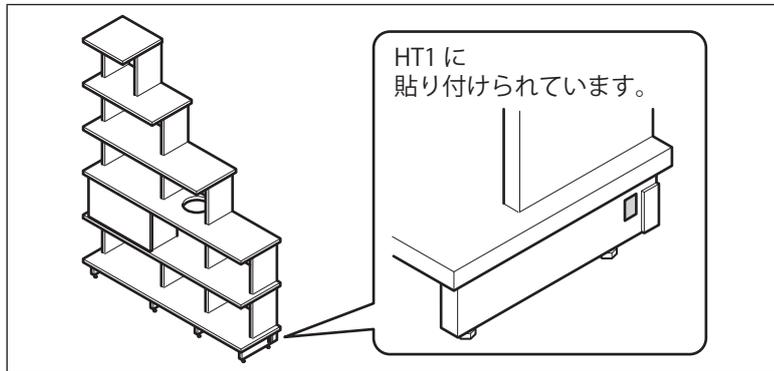
| | |
|-------------------------|---|
| 製品が傾いてきた。 | お買い上げの業者様・工務店様・販売店様にお問い合わせください。 |
| 製品を移設したい。 | お買い上げの業者様・工務店様・販売店様にお問い合わせください。 |
| フラップ扉ユニットのフラップ扉が開閉しづらい。 | P.21「扉の調整」を参考に調整を行ってください。 →それでも直らない場合は、お買い上げの業者様・工務店様・販売店様にお問い合わせください。 |

製品情報

ロットナンバー情報

製品には、製造日時識別のためのロットナンバーが記載されています。
ロットナンバーは製品や修理についてお問い合わせいただいた際におうかがいすることがございます。

取扱説明書用ロットナンバー貼り位置



廃棄上の注意

必要に応じて「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」および地方自治体の規制に基づき適切な処理を行うようにしてください。

ホルムアルデヒド発散区分資料

施工業者様用

DAIKEN ねこシェルフ

F☆☆☆☆
(住宅部品表示ガイドラインによる)

この度は **DAIKEN** ねこシェルフをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本製品のホルムアルデヒド発散に関する性能担保は下の図表のようになっております。
建築確認の際に本資料をご利用ください。

●製品の構成とホルムアルデヒド発散区分

規制対象外 (F☆☆☆☆)

| 構成部位 | 表面材料 | 発散区分 | 備考 |
|--------|-------|--------------|-----------------------------|
| 棚板 | 化粧PB | 規制対象外(F☆☆☆☆) | 日本建材・住宅設備産業協会表示登録品：K-002603 |
| 方立 | 化粧PB | 規制対象外(F☆☆☆☆) | 日本建材・住宅設備産業協会表示登録品：K-002603 |
| 扉 | 化粧MDF | 規制対象外(F☆☆☆☆) | 日本建材・住宅設備産業協会表示登録品：K-002058 |
| | 化粧PB | 規制対象外(F☆☆☆☆) | 日本建材・住宅設備産業協会表示登録品：K-002603 |
| ユニット本体 | 化粧MDF | 規制対象外(F☆☆☆☆) | 日本建材・住宅設備産業協会表示登録品：K-002058 |
| ユニット本体 | 化粧PB | 規制対象外(F☆☆☆☆) | 日本建材・住宅設備産業協会表示登録品：K-002603 |
| 丁番等の金具 | — | 告示対象外 | |
| 納まり部材等 | — | 規制対象外部位 | 規制対象外(F☆☆☆☆)同等品質材料を使用 |

規制対象外部位・告示対象外

| | |
|--------|---------------------------------|
| 丁番等の金具 | 告示対象外 |
| 納まり部材等 | 規制対象外部位：規制対象外 (F☆☆☆☆) 同等品質材料を使用 |

木質材料の性質について

木室収納扉の「反り」について

木材を原料とする木質材料(合板、パーティクルボード、MDFなど)を加工して作られた収納扉は、空気中の水分を吸収したり放出したりすることにより、伸縮する特性を有しています。この空気中の水分の吸収・放出は、収納扉周辺の温度、湿度等の環境条件の変化に応じて発生するものであり、自然現象といえます。特に、収納扉の室内側と収納庫側の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。

「反り」の発生を出来るだけ抑える方法について

ご使用の環境や設置場所によって「反り」が発生する場合があります。「反り」の発生をできるだけ抑える方法として、次のことにご注意ください。

- ①エアコン、暖房器具等をお使いになる場合は、収納扉に直接熱風、熱気が当たらないようにしてください。
- ②夏場の冷房、梅雨時の除湿、冬場の暖房等により、室内側と収納庫側の環境条件の差を極端に大きくしないでください。
- ③収納扉に直接日光が当たる場合は、窓辺にカーテン、すだれ等を掛けて日光を遮ってください。発生した「反り」は室内側と収納庫側の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。

DAIKEN製品の品質保証について

弊社では対象製品について下記保証期間・保証事項に記す内容を保証させていただきます。

■対象製品 ねこシェルフ

■保証事項

| 保証事項 | | |
|---------------------|-----------|--------------------|
| | 保証箇所 | 保証対象となる不具合現象 |
| 使用上の著しい支障が生じないこと | 扉、ボックス、本体 | 作動不良(故障) |
| 外観上の著しい変形・変質が生じないこと | | 変形、変質(反り、ハガシ、クラック) |

通常的环境下で、弊社の施工方法・取扱説明書に準じた正常な施工・使用がなされている状態(前提条件)で、上記事項を保証します。尚、本内容は日本国内においてのみ有効です。

■保証期間

引渡し後2年(電気部品は1年)とさせていただきます。弊社商品の引渡し完了後に生じた、弊社の責任に起因する製品の不具合を、無料で修理する期間としています。保証期間を経過した製品においても、修理可能なものは、有償にて修理を承ります。

■免責事項

- ・製品の不具合原因が免責事項にある場合には、保証期間内であっても「有料扱い」になります。
 - 1) 建物の設計・施工に起因する不具合
 - 2) 施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合
 - 3) 自然現象・周辺環境等(※1)の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れまたはその他の不具合

- 4) 室内であっても部屋内外の温湿度差が著しく違う部位に取り付けられたことに起因する不具合
- 5) 極端に乾湿を繰り返したり、著しく高温・多湿となる部位に取り付けられたことに起因する不具合
- 6) 建物自体の変形、入居後における増改築や改修等に起因する不具合
- 7) 入居者または第三者の不適切な使用または維持管理等に起因する不具合
- 8) 取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗、磨耗、破損、変形などによる不具合
- 9) 経時変化による通常一般的な当該保証対象品の変色、汚れ、さび、かび、劣化磨耗などの不具合
- 10) 用途外に使用された場合の故障および損害(例えば、一般家庭用を業務用に、屋内用を屋外に使用された場合等)
- 11) 爪とぎ・かじりなどによる傷や破損、糞尿による汚損・劣化など小動物に起因する不具合や、ククイムシなどの害虫に起因する不具合
- 12) 本製品からの落下や、扉にはさまれるなどによる、ねこのケガ
- 13) ねこにより、本製品に積載・収蔵した物品に生じた、破損、汚損、滅失などの損害や、当該物品の落下、破損などに起因して発生した一切の損害
- 14) 仕上げ面のキズなどの不具合で引渡し時に申し入れがなかった場合
- 15) 保証期間経過後の申し出、または不具合発生後速やかに申し出がなかった場合
- 16) 製造時に実用化されていた技術では予測することが不可能な事象に起因する不具合
- 17) その他当該不具合の発生が弊社の責によらない場合

※1: 火災・地震・水害・落雷などの天災地変や、公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

ユーザー登録サービス

このたびは DAIKEN 製品をお求めいただき誠にありがとうございます。製品を末永く安全にご愛用していただくために、ユーザー登録をお願いいたします。ご登録いただいたお客様情報は、製品安全に関する大切なお知らせや暮らしに役立つ情報を DAIKEN からご連絡する際に、ご利用させていただきます。

ユーザー登録は無料です!!

登録はこちらから
<https://www.daiken.jp/qr/user/>



ご相談窓口について

- 製品に関するお取り扱い、補修、工事などのご相談は、組み立て・設置業者、工務店へ。
- DAIKENへ直接ご相談される場合は、下記窓口へお願いします。

製品に関するお問い合わせご相談

DAIKENお客様センター

☎ 0120-787-505
(フリーダイヤル)

- 受付時間…平日9:00~17:00
(土・日・祝日・年末年始・お盆はお休みをいただいています)

<https://www.daiken.jp/qr/form01/>



メールで写真も送れます。

修理・交換部品のご購入の方は

DAIKENパーツショップ
部品のネット販売サイトです。

<https://www.daiken.jp/qr/service/>

DAIKENホームページ ▶ お客さまサポート ▶

▶▶▶▶ DAIKENパーツショップ



ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

大建工業株式会社及び大建工業グループ各社は、当社「個人情報の取扱いに関する方針(プライバシーポリシー)」に則ってお客様に関する個人情報を利用させていただく場合がございます。(大建工業株式会社プライバシーポリシーに関しては、当社ホームページに掲載しております。)尚、電話での相談に対し、折り返し電話をさせていただくためにナンバーディスプレイを採用しています。またご相談内容を正確に把握し、適切に対応するために、通話内容を録音させていただくことがあります。